

水上公園整備基本計画概要書

プールの利用休止後もじゃぶじゃぶ池などで皆様に親しまれてきた水上公園
一年中楽しめる、新しい子供の遊び場として活用する「整備基本計画」を策定

背景と経緯

多摩川の豊かな自然を望む水上公園。昭和47(1972)年の開園以来、市営プールとして皆様に親しまれてきましたが、平成30年（2018）年に主要なポンプ設備の故障や老朽化などによりプールの利用を休止しました。その後は、利活用に向けてじゃぶじゃぶ池事業、国・東京都の補助事業の調査、民間事業者へのヒアリング調査など、段階的な検討を進めてきました。プール再開を望む声も多く寄せられる一方で、利用者数及び利用料収入の減少傾向、気候変動による安全上のリスク、設備の老朽化への対応と維持管理に要する多額の費用など、多くの課題がありました。



この状況を踏まえ、令和7年度には、庁内関連部署による「羽村市水上公園及び周辺環境の整備計画検討委員会」を設置し、水上公園の今後の活用について検討を重ね、「羽村市水上公園整備基本計画」として整理しました。

今後の方針

【プール施設の廃止】

プール施設については、多くの課題の解決が必要であり、総合的に勘案した結果、安全・安心かつ市民のニーズに応え得る施設として維持管理することが困難と判断しました。

【子供の遊び場の整備】

今後は『子供が主体的に「創る・育む」遊び場づくり事業』として、東京都の補助事業を活用し、年間を通して利用可能な施設とすることで、より多くの市民の皆様に長期的かつ持続可能なサービスを提供していきます。

整備の視点

今後の方針や上位関連計画を踏まえ、整備のポイントとなるのは以下の3つの事項です。

1 年間を通じて利用できる

プール開園時、ピーク時から利用者数が半減、開園期間は夏季の約45日間。費用対効果が見込めない中、年間を通じて利用できる施設として活用する。

2 立地や既存施設を活かす

近隣に豊かな自然があり、ポテンシャルの高い公園です。周辺の地域資源や公共施設との一体的な活用、管理棟や親水池などの既存施設を有効に活用する。

3 こどもまんなかはむらの実現に資する

「こどもまんなかはむら」の施策として、子供たちの遊び場・居場所の充実、地域交流と社会参画を促進し、暮らしやすさ・子育てやすさで、若い世代に羽村の魅力を発信する。

■現在の施設概要



こどもまんなかはむら 羽村市こども計画で目指す社会のこと。子供や若者の意見を尊重し、最善の利益を第一に考え、子育て世帯を社会全体で支える「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組み。



令和7年度は、市民の皆様のご意見やアイデアをうかがい、これらを整備の基本方針や整備計画などへ反映しました。令和8年度以降も、引き続き、皆様のご意見やアイデアをいただきながら一緒に事業を進めます。

市民アンケート

水上公園の今後の利活用について、令和7年7月に全市民対象のアンケート調査を実施し、11月には市民と産業のまつり来場者を対象にニーズ調査をしました。



市民と産業のまつりでのニーズ調査

主な意見

- プールの再開。
- 自然の豊かさを活かしつつ、身近な水遊びの場として継続できないか。
- 立地が良く、トイレなどの施設が利用しやすい。
- 多世代交流のできる施設として一年を通じ利用できるとよい。
- 高学年の子供の居場所としても、活用できそう！
- アスレチックや大きな複合遊具があつたらいいな！
- 赤ちゃん休憩室、授乳室やおむつ交換ができる場所、日陰や飲食スペース。

関係団体ヒアリング・アンケート

子供と関わる保育園・幼稚園・子供の遊びに関わる団体を対象に、遊びの状況を聞き、意見やアイデアを募りました。



関係者ヒアリング

主な意見

- 家でできない、走る、騒ぐ、汚す、ができるといい。
- 大人も子供も中学生も本気で遊べる場所にしてほしい。
- 整備後の運営の仕組みが重要。運営者の継続に行政のサポートがほしい。
- パパ同士が関われる場所があるといい。羽村横丁みたいな！
- 通年で水遊び・焚き火・泥遊びができ、音楽など文化も体験できる施設に。
- 着替えられる場所、暑さと日差しを避ける設備があるといい。
- 赤ちゃん連れ、屋内を好む子供も安心して過ごせる屋内施設。
- 夕方以降は、中高生が過ごせる居場所。
- できることがあれば協力します！

ニュースレター

ワークショップの募集、ワークショップの結果、事業の進捗などは丁寧に情報発信していきます。



本事業のニュースレター第1号 (令和8年3月)

子供の遊び場の整備

羽村市こども計画が目指す社会「ともに はぐみ ともに そだつ こどもまんなかはむら」の実現に向け、子供が企画・設計・製造・設置・運営の各段階で主体的に遊び場づくりに関わる「子どもまんなか公園づくりプロジェクト」として、事業を実施します。

コンセプト

「自分の遊び場は、自分でつくる」



大人は子供のアイデアや思いを引き出し一緒に形にしたり、実現できないことは丁寧に理由を伝え、子供が社会のルールなどを学ぶ機会となるよう取り組みます。

基本方針

市民アンケート・関係者ヒアリング・意見交換会・遊び場づくりワークショップの結果を踏まえ、整備の基本方針として、以下の3つを定めました。

公園の在り方

すべての子供が遊び、学び、過ごせ、育まれる「新たな公園」として整備します

水上公園を、子供の遊び場・居場所として有効活用
地域を元気にする若い世代の暮らしやすさの促進に寄与

遊び場づくり

子供が自ら考え、つくり、楽しむための「遊び場」として整備します

子供の主体的な参画により、子供が望む「遊び」を具体化
ワークショップでは大人が子供をサポートし一緒に形にしてい

子供の関わり方

多様な人々が参加し、つなぎ、守り続ける「しくみ」をつくります

保護者や地域住民、事業者や団体など多様な主体の参加・交流を促す
将来にわたり守り育てていこうという気持ちと愛着を醸成

意見交換会

市民・公園づくりに関心のある方々に今回のプロジェクトについて説明し、意見交換を行いました。



意見交換会

主な意見

- 多くの子供の意見を十分に得ることが重要！
- 本園の潜在的なパワーや環境の良さを、子供に伝えてから意見を聞いては？
- スケートボード・BMX・ボルダリングなど新たな利用にも期待。
- 暑い時にクールダウンできる、親水機能を発揮させて欲しい。
- 大学生が子供と大人の間に入り、実現していく方法は良い効果が出そう。
- 市内の人材育成の視点も欲しい。
- 羽村市の子供は幸せ。今回の計画にぜひ参画したい！
- 東西から広く市民が集まる場へ。遊ぶ、学び、持ち帰って広げるのが大事。
- 羽村市で育ち市外へ出た人も注目する機会に！

遊び場づくりワークショップ

「自分の遊び場は、自分でつくる」をコンセプトに、子供や支援する皆様が遊び場づくりを行う子供ワークショップ。市民等が集まる初めての場で、「探検隊」として現地で調べてきたことやアイデアなどを出し合いました。

主な意見

- 今のままでも人が来れば楽しい空間になる。
- じゃぶじゃぶ池は残したい。ウォーターライダーは今後も活用したらどうかな？
- 滑りにくくて転びにくい床へ。トイレは洋式でキレイに。
- おむつ替えなどができる赤ちゃんスペースがあるといいな。
- 着替える場所がほしいな。テントが持ち込めたら着替えスペースになるね。
- 夏は暑いから木を植えて日陰を！冬は植物の風よけがほしいな。
- 季節によって別の使い方をしたいな。(ランダム噴水/ミスト/足湯)
- アートを加えて映えスポットに。外壁は子供の絵で塗り直しをしたらどうかな？
- お花があるといいな。くつろげるスペースもほしいな。大人の場所もほしいな。
- 子供が楽しめる遊具。(ふわふわドーム/長い滑り台/ボールプール/迷路など)
- こんなことできるかな？(ゴーカート/BMX/スケボー/ダンス/ピクニック など)
- はだして遊びたいな。(芝生/芝すべり/足洗い場 など)
- 流れるプール、プールのままで修復する方法はないかな。
- イベント収益を運営や補修の費用に。昼・夜のイベントを充実させたいな。
- みんなでエコハウス作りができれば面白いな。リスがいたらいいな。

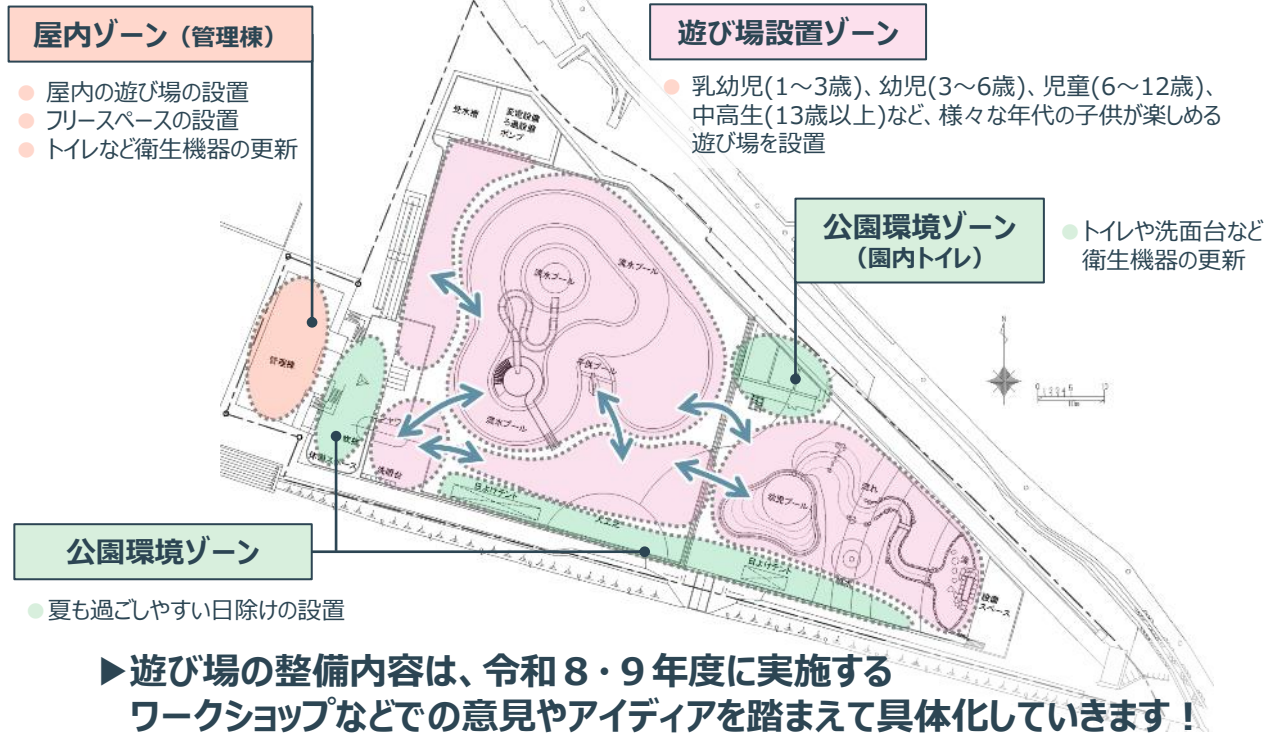


遊び場づくりワークショップ

令和8年度は、さらに多くの「遊び場づくりワークショップ」を開催してまいります。
 令和9年度末までの2年間、皆様の意見やアイデアの計画・設計への反映や、公園の「担い手」の育成、地域での見守りや運営の仕組みづくりなどを進めていきます。

整備計画の概要

公園全体の居心地を良くするための「公園環境ゾーン」、豊富な遊びの要素を配置する「遊び場設置ゾーン」、既存の管理棟内の「屋内ゾーン」の3つのゾーンに分類し整備概要として整理しました。



スケジュール

令和8・9年度は、ワークショップ・イベントと並行し、先行整備が必要な施設から設計・工事を開始していきます。



プロジェクトの最新情報は
こちらから！



お問合せ：羽村市 まちづくり部 土木課 公園管理係
 042-555-1111（内線282）